

自然教育園の鳥類の記録 (1982~1984年)

千羽 晋示*・坂本 直樹**

A Note on the Birds of the Institute for Nature Study

Shinji Chiba* and Naoki Sakamoto**

これまで自然教育園で記録された鳥類は、先に自然教育園動植物目録(1984)で報告したように、13目、33科、101種及亜種となっている。

しかし、本園は、東京都心に位置しており、周辺地域の都市化の進展により陸の孤島の環境条件と化しており、広域に広がる自然緑地と比較すると異質な環境下にあるといえる。

このことが要因として関係しているかどうかは明らかでないが、鳥類も例年定期的に飛来し、個体数などにもあまり変動のみられない種、逆に年により異なった状況を示す種などがあり、全体的にみると不安定な状態を示す傾向のあることが推察される。

したがって、自然教育園の鳥類群集については、1969年に報告した自然教育園の鳥類群集の資料を基本として、その後の新記録種、年による変動、そして現状などについてこれまで数回にわたって報告してきた。

今回の報告も、これまでの一連のもので、1982年から1984年までの3年間の観察記録をもとにまとめたものであり、過去の記録とも比較し、若干の考察を加えた。

この報告を記すにあたり、小原伸一氏から観察記録、写真資料の提供をうけたことを記し、謝意を表す。

1982年から1984年の記録

カイツブリ目 **PODICIPEDIFORMES**

カイツブリ科 **PODICIPITIDAE**

カイツブリ *Podiceps ruficollis poggei* (Reichenow)

1980年に初めて飛来し、繁殖をし3羽のヒナの巣立ちをみたが、その後1981年、1982年と3年続けて繁殖をみたが、1983年以降は、飛来していない。

3・V・1982 (繁殖: 幼鳥3羽・水生植物教材園)

コウノトリ目 **CICONIIFORMES**

* 国立科学博物館附属自然教育園, Institute for Nature Study, National Science Museum

** 平和精機株式会社, Heiwa Seiki Co., Ltd.

サギ科

ARDEIDAE

ヨシゴイ *Ixobrychus sinensis sinensis* (Gmelin)

入園者により発見されたもので、2回目の記録。

13・Ⅴ・1983 (早または幼鳥: ひょうたん池)

ゴイスギ *Nycticorax nycticorax nycticorax* (Linnaeus)

春から秋にかけてみることが多い。夜間飛来し、早朝に帰去するため、本園では常時生息しない。時に残るものが昼記録される。

20・Ⅳ・1982; 27・Ⅲ・1983; 28・Ⅳ・1984など。

アマサギ *Bubulcus ibis coromandus* (Boddaert)

4・Ⅴ・1984 (水生植物教材園: 初記録)

ダイサギ *Egretta alba* (Linnaeus)

最近飛来の頻度が高くなっている種の一つである。

9, 16・Ⅰ; 6・Ⅱ; 22・Ⅲ; 5・Ⅴ・1983 (いずれも1羽: 水生植物教材園) など。

チュウサギ *E. intermedia intermedia* (Wagler)

18・Ⅳ・1982; 23・Ⅱ・1983 (水生植物教材園)

コサギ *E. garzetta garzetta* (Linnaeus)

1980年前後は、水生植物教材園を中心に頻度高く飛来していたが、最近は、1~2羽程度が秋季から冬季にかけてみられることが多くなり、夏季は少なくなった。

ガンカモ目

ANSERIFORMES

ガンカモ科

ANATIDAE

オシドリ *Aix galericulata* (Linnaeus)

飛来数が1981年頃少なくなったが、1984年には、若干増加の傾向をみせている。これまでの初記録は、1979年8月5日の2♀型であったが、1984年7月15日に♀型1羽の飛来を記録した。終記録は、これまでと同じく、1981年6月14日である。

また、飛来した最多個体数は、158羽 (120♂・38♀; 27・Ⅱ・1964) である。

この3年間の記録では、初認日 18・Ⅶ・1982; 11・Ⅱ・1983; 15・Ⅶ・1984, 終認日 28・Ⅲ・1982; 26・Ⅳ・1983; 24・Ⅳ・1984である。

最多飛来個体数は、28・Ⅱ・1982 (17♂・10♀); 6・Ⅱ・1983 (34♂・32♀); 25・Ⅱ・1984 (25♂・13♀) となっているが、水面が凍結すると園外に飛去し、凍結がとけると再飛来する。

マガモ *Anas platyrhynchos platyrhynchos* Linnaeus

稀に水生植物教材園を中心にみられる。

31・Ⅰ・1982; 8・Ⅰ, 7・Ⅰ・1984

カルガモ *A. poecilorhyncha zonorhyncha* Swinhoe

不規則であるが周年水生植物教材園を中心にみられる。最近では、飛来の頻度が低くなっている。普通1~4羽。

15・Ⅰ・1982 (12羽: 水生植物教材園) など。

コガモ *A. crecca crecca* Linnaeus

1970年1月には、104羽の記録があるが、年々減少し、近年は飛来しない年もみられる。多摩川流域の銃猟禁止区の拡大などにより移動したとも考えられる。

8・Ⅰ (1♀); 7・Ⅳ (♂♀)・1984

ワシタカ目 **FALCONIFORMES**ワシタカ科 **ACCIPITRIDAE**トビ *Milvus migrans lineatus* (J. E. Gray)

かつては本園を寝ぐらとし、例年12月から2月まで利用していた種で、最高398羽(15・Ⅻ・1961：高野伸二)をかぞえたこともあった。現在は(1980年以降)利用していない。みることも稀となった。

25・Ⅺ・1984(1羽)

ノスリ *Buteo buteo japonicus* (Temminck & Schlegel)

本種も1970年頃までは、例年10月下旬から3月上旬までの冬季に水生植物教材園で1羽が越冬していたが、現在は、稀に飛来する程度である。

4・Ⅲ・1984(水生植物教材園北側上空飛翔)

サシバ *Bulastur indicus* (Gmelin)

春・秋の渡りの頃上空を通過するのがみられる。

25・Ⅳ；8・Ⅴ・1983；9・Ⅸ・1984(各1羽)

ハヤブサ科 **FALCONIDAE**ハヤブサ *Falco peregrinus japonensis* Gmelin

サシバ同よう渡りの頃上空を通過するのがみられる。

29・Ⅳ・1983；4・Ⅻ・1984(各1羽)

キジ目 **GALLIFORMES**キジ科 **PHASIANIDAE**コジュケイ *Bambusicola thoracica thoracica* (Temminck)

例年4月頃に繁殖期特有の囀鳴をきくが、近年は1~2個体しかきけなくなった。1980年代に入って急速に減少した種の一つである。

1982年から1984年の初囀鳴日は、21・Ⅱ・1982；20・Ⅱ・1983；25・Ⅱ・1984である。

トウカイキジ *Phasianus colchicus tohkaidi* Momiyama (?)

1981年3月以降、1983年4月にかけて建物跡地、食草園、いもりの池などでみられたが、以後まったくみえていない。飼育中の逃げ出したものが入りこみ、再度園外に飛去したものと考えられる。♂1羽のみ。

チドリ目 **CHARADRIIFORMES**シギ科 **SCOLOPACIDAE**イソシギ *Tringa hypoleucos* Linnaeus

稀に飛来する。

24・Ⅷ・1984(1羽：水生植物教材園)

カモメ科 **LARIDAE**ユリカモメ *Larus ridibundus sibiricus* Buturlin

本園の上空を飛翔して行く種であるが、園内から初めて観察された。西から東に向かって飛ぶ。

28・Ⅺ・1982；16・Ⅰ，4・Ⅻ・1983；16・Ⅻ・1984(1~2羽)

ハト目 **COLUMBIFORMES**ハト科 **COLUMBIDAE**キジバト *Streptopelia orientalis orientalis* (Latham)

周年みられるが、秋から冬にかけては、ドバト的な状態で地上採餌をしているのをみかけるようになった。多い時には、20羽くらいの個体を同一場所でみることがある。

アマツバメ目 APODIFORMES

アマツバメ科 APODIDAE

アマツバメ *Apus pacificus kurodae* (Domaniewski)

上空を渡りの際通過するのみで、秋季に記録が集中している。

15・Ⅸ・1982

ブッポウソウ目 CORACIIFORMES

カワセミ科 ALCEDINIDAE

カワセミ *Alcedo atthis bengalensis* Gmelin

1979年から1981年にかけて、例年冬季に1羽が越冬の形で生息したが、現在は稀にみられる程度である。

ひょうたん池から水鳥の沼に至る水系を主に生息する。

16・Ⅶ；25・Ⅸ；2・Ⅹ・1983（各1羽・いずれもひょうたん池）。

スズメ目 PASSERIFORMES

ツバメ科 HIRUNDINIDAE

ツバメ *Hirundo rustica gutturalis* Scopoli

例年4月から9月にかけて1～5羽が水生植物教材園付近で普通にみられるが、園内では繁殖しない。これまでの早い初認日は、1981年3月29日、おそい終認日は、1965年9月15日の例がある。

1982年から1984年の初認日、終認日は、11・Ⅳ～8・Ⅶ・1982；3・Ⅴ～21・Ⅶ・1983；8・Ⅳ～16・Ⅶ・1984である。他に15・Ⅸ・1982；9・Ⅸ・1984の記録もあるが、渡りの際の移動中の個体と考えられる。

セキレイ科 MOTACILLIDAE

キセキレイ *Motacilla cinerea robusta* (Brehm)

これまで周年不規則に飛来していたが、1982年頃より9月中旬に飛来し、11月下旬くらいまでみられるようになった。1～2羽で12月以降はいなくなるが、他の季節にも時に飛来することに変わりはない。

10・Ⅹ・1982～；18・Ⅸ・1983～；16・Ⅸ・1984～

ハクセキレイ *M. alba lugens* Gloger

冬季を主に1～2羽みることが多いが、夏季にも飛来することが稀にある。

セグロセキレイ *M. grandis* Sharpe

19・Ⅱ・1983（水生植物教材園）

ヒヨドリ科 PYCNONOTIDAE

ヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis amaurotis* (Temminck)

周年みられるが、秋の10月下旬から11月中旬にかけての渡り時期には、全園内で約250羽みられることがある。1月には、越冬個体が30～50羽みられるようになり、生息個体数も安定するが、3月下旬から4月上旬の渡り時期になると個体数が再び増加する。夏季は、少なくなるが10～20羽程度がみられる。

モズ科 LANIIDAE

モズ *Lanius bucephalus bucephalus* Temminck & Schlegel

例年1番は繁殖するが、夏季に一時いなくなる。

1982年から1984年の初認日、終認日は、10・Ⅹ・1982～23・Ⅳ・1983；10・Ⅹ・1983～20・Ⅳ・1984；28・Ⅹ・1984～ となっている。4月下旬頃には例年みられなくなる（29・Ⅳ・1982）。

ミンサザイ科 TROGLODYTIDAE

ミンサザイ *Troglodytes troglodytes fumigatus* Temminck

9・Ⅰ・1983（森の小道）

レンジャク科

BOMBYCILLIDAE

ヒレンジャク *Bombycilla japonica* Siebold

これまでキレンジャクの記録はあったが、ヒレンジャクについては初めての記録である。

3・Ⅳ・1983（7羽：いもりの池のコナラ林の林縁）

ヒタキ科

MUSCIPAPIDAE

ノゴマ *Erithacus calliope* (Pallas)

きわめて稀に飛来する。1970年10月15日以来の記録。

7・Ⅹ・1984（森の小道）

ジョウビタキ *Phoenicurus auroreus auroreus* (Pallas)

例年10月頃飛来する。水生植物教材園付近で多くみる。

23・Ⅰ（♀）、23・Ⅺ（♀）、11・Ⅻ（♀）・1983；9・Ⅻ・1984（♀）

アカハラ *Turdus chrysolaus* Temminck

シロハラより目にとまるが、とくに11月初旬、4月中旬～5月上旬の移動時期に多くみられる。越冬個体は、最近少なくなり1～2羽程度と考えられる。

初認日、終認日は、3・Ⅺ・1982～3・Ⅴ・1983；1・Ⅺ・1983～24・Ⅳ・1984；4・Ⅺ・1984～となっており、初認日では、17・Ⅹ・1980、終認日では、5・Ⅴ・1973の例があり、29・Ⅳ・1981の個体は、囀鳴を行っていた。

クロツグミ *T. cardis* Temminck

25・Ⅳ・1982（正門1羽）

シロハラ *T. pallidus* Gmelin

目につきにくいアカハラより個体数は多い。例年1月中旬頃個体数が多くなる傾向がみられ、5～10羽が越冬する。

初認日、終認日は、～5・Ⅴ・1982；14・Ⅺ・1982～3・Ⅳ・1983；1・Ⅺ・1983～8・Ⅳ・1984；11・Ⅺ・1984～となっている。初認日の早い例としては30・Ⅹ・1980がある。

マミチャジナイ *T. obscurus* Gmelin

1980年代に入ってから例年みられるようになった種で9月下旬～10月下旬にみられることが多い。

2, 10, 15, 23・Ⅹ・1983（1～4羽）；10, 28・Ⅹ・1984（2～3羽）

ツグミ *T. naumanni eunomus* Temminck

例年11月初旬頃飛来し、翌年5月までとどまるツグミの中でもっとも普通にみられる種である。12月上旬から中旬にかけて個体数が急増加する時期があり、全園で50～100羽も記録されることがある。

初認日、終認日は、10・Ⅺ・1981～5・Ⅴ・1982；14・Ⅺ・1982～23・Ⅳ・1983；23・Ⅹ・1983～24・Ⅳ・1984；4・Ⅺ・1984～となっている。

ウグイス *Cettia diphone cantans* (Temminck & Schlegel)

例年11月から翌年4月頃まで滞留する。この3年間の初認日、終認日は、28・Ⅹ・1981～18・Ⅳ・1982；14・Ⅺ・1982～3・Ⅳ・1983；28・Ⅹ・1983～25・Ⅲ・1984；4・Ⅺ・1984～となっている。

個体数は、3羽程度が平均的な数であるが、6羽（6・Ⅱ・1981）や7羽（11・Ⅻ・1966）などの例もある。

初鳴きの記録は、14・Ⅲ・1982；6・Ⅲ・1983；18・Ⅲ・1984となっており、早い例では、28・Ⅱ・1978などがある。

夏季にもしばしばみられることがあり、23, 30・Ⅴ・1982；28・Ⅵ・1983；15・Ⅶ・1984（各1羽・囀

鳴)の記録もある。

コヨシキリ *Acrocephalus bistrigiceps* Swinhoe

1961年以後の再記録種である。

12~15・Ⅴ・1984 (1羽:湿地で囀鳴)

オオヨシキリ *A. arundinaceus orientalis* (Temminck & Schlegel)

例年飛来し、数日間水生植物教材園などを中心にして滞留し、囀鳴している。

30・Ⅴ・1982; 3・Ⅵ・1984

メボソムシクイ *Phylloscopus borealis* (Blasius)

春、秋の渡りの際飛来する種で、春の記録が多い。

16・Ⅴ・1982 (1羽); 8, 15・Ⅴ・1983 (各1羽); 21・Ⅹ・1984 (2羽)

エゾムシクイ *P. tenellipes* Swinhoe

不規則であるが飛来頻度の多い種である。春の記録が多い。

23・Ⅳ・1983; 6・Ⅴ・1984 (1羽:水生植物教材園付近)

センダイムシクイ *P. occipitalis coronatus* (Temminck & Schlegel)

例年4月中旬~5月上旬頃規則的に飛来し、一時滞留していく種である。春の記録が多い。

18・Ⅳ (3羽), 3, 5・Ⅴ (各1羽), 10・Ⅹ・1982 (1羽); 29・Ⅳ・1983 (1羽); 20, 24・Ⅳ (1~3羽), 5, 12・Ⅴ・1984 (1~2羽)

キビタキ *Ficedula narcissina narcissina* (Temminck)

例年、春・秋の渡りの際にみられるが秋の記録が多い。秋の渡りは、9月中旬から10月中旬頃に集中しておりそのほとんどは♀型である。

秋の記録: 23, 26・Ⅸ (1~3羽), 10, 11, 17・Ⅹ (1~2羽)・1982; 2~28・Ⅹ・1983 (1~3羽); 23~30・Ⅸ (1~3羽), 7~28・Ⅹ (1~4羽)・1984

10・Ⅹ・1983; 7, 10, 14・Ⅹ・1984には♂1羽をそれぞれみている。

春の記録は、12・Ⅴ・1984 (♀1羽)のみ。

オオルリ *Cyanoptila cyanomelana cyanomelana* (Temminck)

不規則に飛来する。

23・Ⅸ・1981 (♂若鳥1羽), 1981年の追加記録。

エゾビタキ *Muscicapa griseisticta* (Swinhoe)

例年秋の9月中旬から10月中旬にみられる。

15, 23, 26・Ⅸ (1~2羽), 10~17・Ⅹ・1982 (1~2羽); 23・Ⅸ, 10~23・Ⅹ・1983 (1~2羽); 7~10・Ⅹ・1984 (1~2羽)

コサメビタキ *M. latirostris* Raffles

秋の記録が主である。1965年前後はよくみられていた。

23~26・Ⅸ, 10・Ⅹ・1982; 18・Ⅸ・1983 (各1羽)

シジュウカラ科 **PARIDAE**

ヒガラ *Parus ater insularis* Hellmayr

30・Ⅴ・1982 (ひょうたん池)

ヤマガラ *P. varius varius* Temminck & Schlegel

不規則に現われる種で、現われる年、現われない時など、明治神宮とは、若干ちがう形を示している。

31・Ⅰ, 14~21・Ⅱ, 11・Ⅳ, 10~27・Ⅹ, 3・Ⅺ・1982 (1~2羽)

シジュウカラ *P. major minor* Temminck & Schlegel

周年生息している。繁殖。

メジロ科

ZOSTEROPIDAE

メジロ *Zosterops japonica japonica* Temminck & Schlegel

周年みられる。秋から冬にかけて個体数も5～10羽と多くなるが、夏季は少ない。繁殖は未確認であるが、夏季に2～3個体の囀鳴を聞くこともあり、繁殖個体があるのかも知れない。これまでの最高個体数は、62羽（26・Ⅹ・1961）である。

ホオジロ科

EMBERIZIDAE

ホオジロ *Emberiza cioides ciopsis* Bonaparte

1976年頃までは、一番が必ず繁殖していたが、現在は3月中旬頃と11月中旬頃にみられる程度である。生息環境として森林化がすすんだためかも知れない。

22・Ⅲ（含1羽）、11・Ⅳ（1羽）、14、23・Ⅺ・1982（♀1～2羽）；14・Ⅺ・1983（♀3羽）；25・Ⅲ・1984（含♀）

カシラダカ *E. rustica latifascia* Portenko

例年冬季に不規則に飛来していたが、近年は、10月下旬に飛来し、11月下旬頃までとどまる。しかし、越冬する個体はみていない。春季は、3月に飛来し、4月頃までには飛去する。

秋の記録（初認）：27・Ⅹ・1982（3羽）；20・Ⅺ・1983（2羽）；4・Ⅺ・1984（2羽）

春の記録：22・Ⅲ・1982（1羽）；11～25・Ⅲ・（この間に13羽〔3・Ⅲ〕の記録あり；4～13羽）、7～8・Ⅳ（2～4羽）、20・Ⅳ・1984（2羽）など。

アオジ *E. spodocephala personata* Temminck

例年10月下旬に飛来し、翌年5月上旬まで滞留するようになった。越冬個体は、5～10羽と考えられるが、12月から1月にかけて個体数が増加し、15羽以上をみることがある。1983年12月には、23羽を認めた。

初認日、終認日は、28・Ⅹ・1981～3・Ⅴ・1982；27・Ⅹ・1982～3・Ⅴ・1983；23・Ⅹ・1983～9・Ⅴ・1984；28・Ⅹ・1984～となっている。

クロジ *E. variabilis* Temminck

1980年代に入って越冬個体の認められはじめた種である。

秋の記録：31・Ⅹ・1982（♀1羽）；6・Ⅺ・1983（含♀各2羽）；23・Ⅺ・1983（含1羽）；25・Ⅻ・1983（含1羽）

春の記録：17・Ⅰ・1982（♀1羽）；22・Ⅰ・1984（含4羽）；11・Ⅱ・1984（含2羽）；7・Ⅳ・1984（含2羽）；5・Ⅴ・1984（含2羽）；6・Ⅴ・1984（含1羽）など。

アトリ科

FRINGILLIDAE

カワラヒワ *Carduelis sinica* (Linnaeus)

例年11月から翌年6月頃まで生息し、一時園外に飛去する。繁殖後飛去するように考えられる。

シメ *Coccothraustes coccothraustes japonicus* Temminck & Schlegel

例年11月頃飛来し、翌年4月下旬から5月上旬にかけて飛去する。越冬個体は、4～5羽と考えられるが、4月頃一時個体数の増加するのがみられる。

初認日、終認日は、～18・Ⅳ・1982；27・Ⅹ・1982～26・Ⅳ・1983；28・Ⅹ・1983～12・Ⅴ・1984；28・Ⅹ・1984～；23・Ⅳ・1983（8羽）

ハタオリドリ科

PLOCEIDAE

スズメ *Passer montanus saturatus* Stejneger

園内での繁殖はしていない。4月から9月にかけて個体数が増加し、40~50羽をみることもある。

ムクドリ科 STURNIDAE

コムドリ *Sturnus philippensis* (Forster)

稀にみられる。

26・Ⅱ・1982 (含♀各1羽); 10, 24・Ⅹ・1982 (10羽); 25・Ⅱ・1983 (含1羽) など。

ムクドリ *S. cineraceus* Temminck

みられることの少なくなった鳥の一つである。1980年頃は、冬季に300羽以上の群もみられたが、近年はみられない。6月から8月頃に若鳥を混えた群れ(30羽程度)、9月から10月頃に50羽程度の群をみることができくらいである。

カラス科 CORVIDAE

カケス *Garrulus glandarius japonicus* Temminck & Schlegel

例年数個体が飛来し、10月中旬頃から翌年4月下旬頃まで滞留する。

18・Ⅹ・1981; 10・Ⅹ・1982 (2羽)

オナガ *Cyanopica cyana japonica* Parrot

周年生息するが、秋から冬にかけて個体数が多くなる。

ハシボソガラス *Corvus corone orientalis* Eversmann

10月下旬から翌年4月まで滞留するのがみられるが、個体数、時期も最近不規則になってきている。

ハシブトガラス *C. macrorhynchos japonensis* Bonaparte

周年生息するが繁殖個体は4~5番程度である。しかし冬季の寝ぐらとして利用する個体は、1,000羽以上と考えられる。

1982年から1984年の3年間について、自然教育園での鳥類の概略を示してきたが、一般的な種については、一部確認記録を省略した。

この結果、新にアマサギ、ヒレンジャク、ユリカモメの3種が追加され、合計104種及び亜種を記録することとなった。

しかし、本報告の個々の種で記録したように、種によっては不規則な飛来状況を示しており、また、まったく飛来しなくなった種も多いことがいえる。

全体として、年間通して観察した場合、104種中少なくとも、その半数以上にあたる55~60種はみることが可能であり、都心の中の緑地というものの、まだ豊かな鳥類を生息させるための環境要素を含んでいるといってもよいであろう。